

平成13年9月5日
原子力安全対策課
(13-4-1)
<13時30分記者発表>

大飯発電所2号機の原子炉起動延期について (第16回定期検査)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格出力117.5万kW）は、9月上旬に定期検査の最終段階である調整運転を開始するため、9月2日に原子炉を起動する予定で作業を進めていたが、8月31日10時頃にターニング油ポンプが停止したため、当該ポンプの分解点検を実施することとし、原子炉の起動は、数日程度遅れる見通しである。

（平成13年8月31日 11時資料配付、16時30分お知らせとして資料配付）

1. 点検結果

ターニング油ポンプの点検を行った結果、ポンプ上部軸受（ボールベアリング）に焼き付き（かじり）が生じ回転しない状態となっており、ボールの保持器も損傷していることが確認された。また、ポンプ上部軸受に潤滑油を供給するための上部軸受箱カバー内の給油口（直径約2mm）が塗料で塞がっており、上部軸受に潤滑油が供給されていない状態であったことが判明した。

2. 原因

大飯発電所2号機では、第13回定期検査（H9.2.3～8.14）において低圧タービンを取替えたことに伴い、新しいターニング油ポンプを設置した。給油口の塞がり、同ポンプの工場製作時に上部軸受箱カバー内面に防錆用塗料を塗布した際生じたものと推定された。

当該ポンプを据え付けた際には、別の給油穴から上部軸受に潤滑油を封入していたため、同ポンプの運転時（ターニング時やタービンの起動・停止時）には異常が認められなかった。その後、給油口からの潤滑油の供給がないため、当初封入されていた軸受部の潤滑油が徐々に減少したこと、軸受で焼き付き（かじり）が発生し、保持器が損傷するとともに同ポンプのモータが過負荷で停止したものと推定された。

3. 対策

損傷が認められた軸受は新品に交換するとともに、軸受箱カバーの給油口を塞いでいた塗料は除去した上で、同ポンプを復旧し、3日からタービンのターニングを再開した。現在、原子炉起動に向けた準備を行っている。

[ターニング油ポンプ]

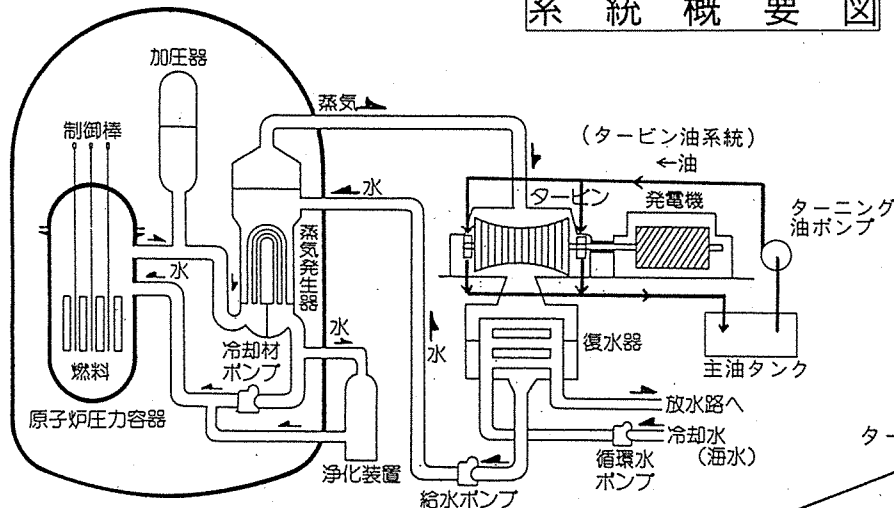
ターニング（タービン起動前にタービンロータのたわみを解消させる作業）時やタービンの起動・停止時に、タービン軸受に潤滑油を供給するためのポンプ。

[保持器]

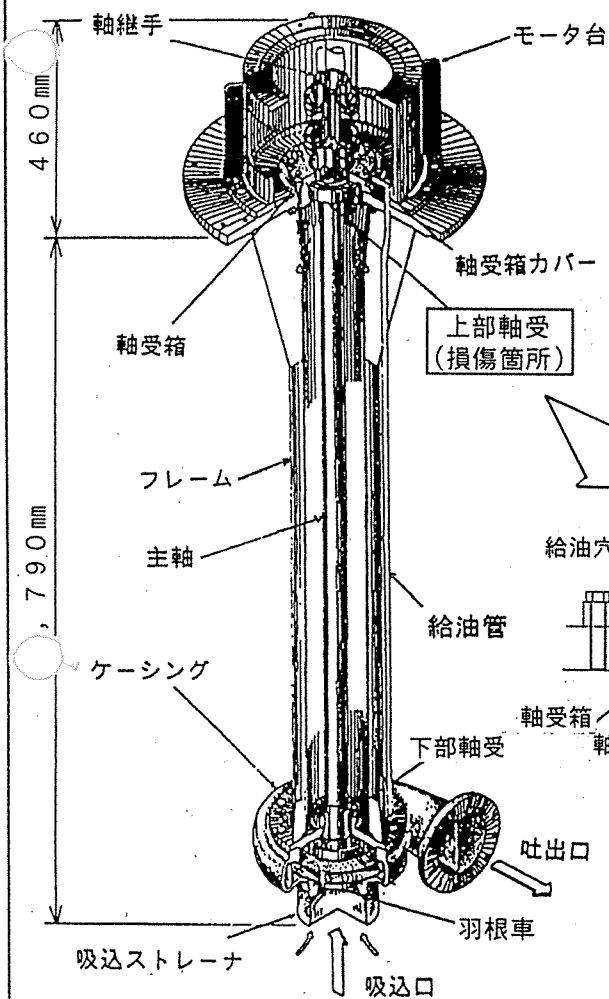
ボールベアリングのボール互いに接触しないように、間隔を一定に保つため設置されている金具。

原子炉格納容器

系 統 概 要 図

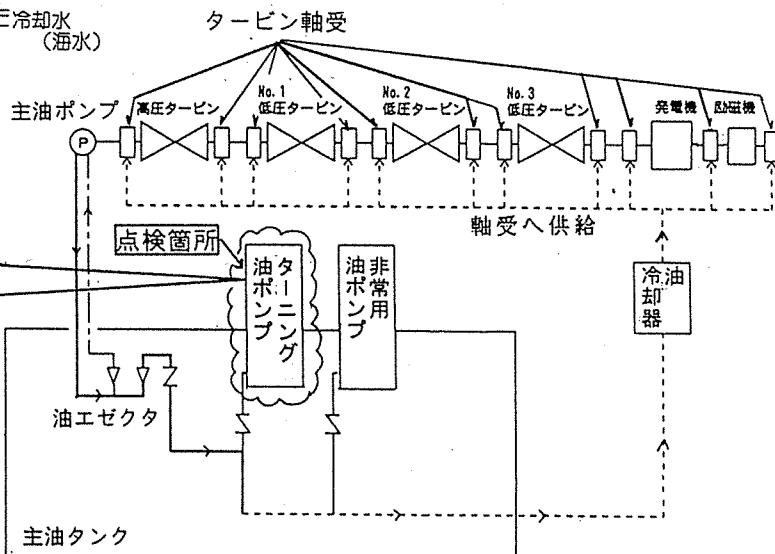


ターニング油ポンプ構造図

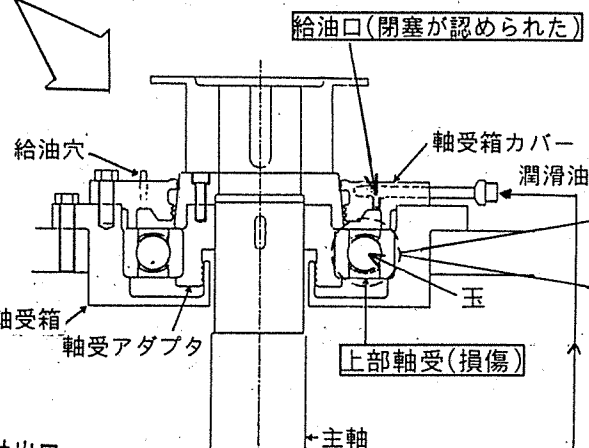


[ターニング油ポンプ仕様]

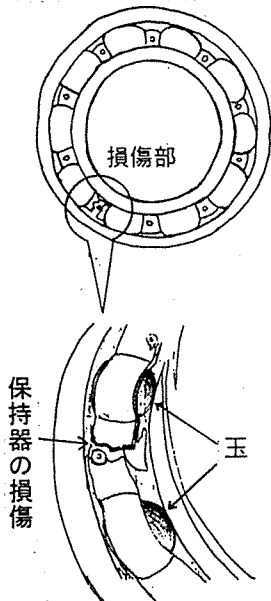
吐出量	7,500ℓ/分
吐出圧力	0.31MPa



上部軸受付近断面図



上部軸受部損傷状況
(上部から見た図)



[上部軸受仕様]

軸受型式	玉軸受
内径	120mm
外径	215mm
高さ	40mm

